

防災×公園って、こんなに面白い！

神戸市では、公園の持続可能な管理運営方法について検討しています。令和 6 年度には、公園を地域の交流拠点として活かすために「公園ミーティング」を開催しました。令和 7 年度は、その取り組みを神戸市公園緑化協会が引き継ぎ、防災をテーマにしたイベントを実施しました。

今年は阪神・淡路大震災から 30 年という節目でもあり、公園が地域の防災にも役立つことを知っていただく機会となりました。

初日から防災体験が盛りだくさん

11 月 21 日（金）

12:00 - 【キャンプサイト設営】



（キャンプサイト設営の様子）

年齢や障がいの有無を問わずアウトドアを楽しめるように様々な活動を行っている団体“WAGOMU”さんを中心に、神戸総合運動公園の中でも普段あまり使われていない展望広場が、この日はキャンプサイトとして生まれ変わりました。

キャンプというと郊外や山のイメージがありますが、今回は都市公園での開催ということもあり、キャンプセットを抱えて電車で来られた方もいたそうです。都市空間でアウトドア体験が行われる様子はとても新鮮で、どこか不思議な光景でもありました。

一方で、こうして都市空間と自然体験がうまく組み合わせることで、公園の新しい使い方の可能性が広がると感じました。



(公園利用者向けに案内や注意事項等のお知らせポスターを設置しました。)

13:30 - 【チップー体験】



(チップー体験の様子)

チップーは枝や木材を細かく砕いてウッドチップにする機械で、果樹園などでは枝打ちで出た枝をチップにして土の養生として活用しているそうです。竹チップは炭にするなど、素材によって使い方が違う点が印象的でした。

音が大きいため、ヘルメットとイヤーマフを着用していざ体験。チップ化した瞬間に木の良い香りが広がり、とても心地良かったです。今回緑化協会がコアラのエサとして管理するユーカリの木もチップにしましたが、意外と香りは控えめでした。

15:30 - 【竹ご飯作り体験】



(竹ごはんづくりの様子)

神戸市長田区の丸山を拠点に「おうちびらき」を行うなど、定期的に自然体験活動を行っている“まんまある”さんのプログラムで、竹を使った防災ご飯づくりを体験しました。竹筒にお米と水を入れ、焚火で“ほったらかし炊飯”が出来るのが特徴です。防災展示にご参画頂いた三ツ星貿易株式会社さんの提供品である乾燥野菜ミックスを混ぜた竹ご飯おにぎりは、防災食とは思えない美味しさでした。

使い終わった竹は薪として再利用され、ゴミを出さない仕組みになっていて、素材を無駄なく生かす工夫が施されていました。

【展示コーナー】

➤ 神戸市提供品



(避難所用簡易テント設置の様子)



(段ボールベッド組み立て中)



(テントを畳むプロフェッショナルの神戸市職員の方々)



(西日で蓄電を試みる)

展示コーナーでは避難所用の簡易テントを設置しました。「ワンタッチ」と書かれているものの意外と難しく、参加者同士で笑い合いながら楽しく組み立てました。

また、太陽光蓄電機も展示されており、西日の中で少しでも発電してくれることを期待しながら設置しました。

➤ 三ツ星貿易 提供品 防災用品



(すぐに固まり、薬をかけるとすぐに溶解する不思議な土嚢)

衛生商品や保安商品、製菓用品などを取り扱う三ツ星貿易株式会社さまからは、都市型の土嚢を展示、実演いただきました。水につけるだけで一気に膨らんで固まるため、土が確保しにくい都市部でもすぐに使えます。滑り止めのある生地は特許取得済みで、水漏れもないそうです。実演にてあっという間に固まる様子を見ることができました。

使い捨てタイプで、処分時は布を切って薬剤をかければ水が抜け、残った部分は可燃ごみにできます。

➤ 株式会社フェリシモ 提供品 もしもしも「きほんのきセット」



(「きほんのきセット」展示の様子)

ファッションや生活雑貨などを中心に多様な商品を通信販売にて提供している株式会社フェリシモさまからは、防災セット「もしもしも きほんのきセット」を提供いただきました。10 か月の定期便で少しずつ届く仕組みで、日常の中で無理なく防災意識を高められるのが特徴です。

また、公園ミーティングや展示に来てくださった方には、非常食ゼリーや簡易トイレセットをプレゼントし、防災を身近に感じてもらう良い機会であったと感じました。

➤ 神戸トヨペット株式会社



(今年のデザインコンテスト最優秀賞のデザインが施された MIRAI)

神戸トヨペット株式会社さまからは、給電車として燃料電池自動車「MIRAI」をご提供いただきました。MIRAI は地球にやさしい水素を燃料とする車で、環境問題への関心を広げる取り組みの一環として、車体デザインのコンテストを開催しておりました。今年の最優秀作品に選ばれたデザインが実際に車体に貼り付けられています。

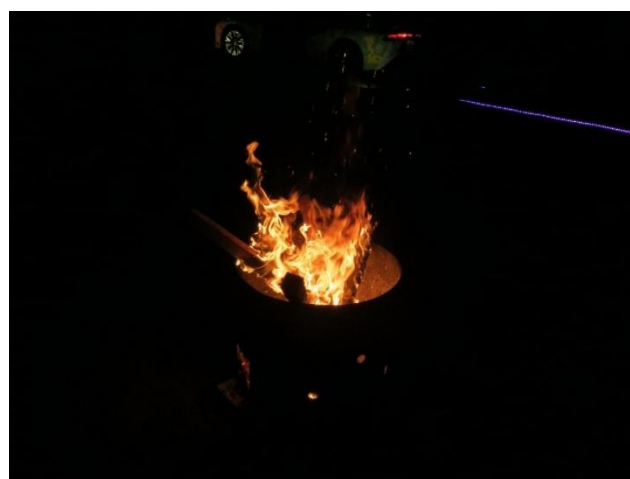
17:30 - 【天体観測】



(天体観測の様子)

コスモスの丘にて、舞子高校天文気象部の皆さんによる天体観測のイベントがひらかれました。大きな望遠鏡を覗くと、土星をはっきりと見ることができました。大人も子どもも夢中になってレンズを覗き込み、夜空を観察する貴重な時間となりました。

18:30 - 【公園ミーティング】



(公園ミーティング・トークセッションの様子)

公園ミーティングでは、公園の持続可能なあり方をテーマにしたトークセッションが行われました。行政から公園管理者、地域団体、企業など、多様な方々が登壇し、それぞれの視点から公園の役割や今後の可能性について意見を交わしました。登壇者のお話によって、公園が持つ多面的な魅力が共有されました。参加者も熱心に耳を傾け、公園に対する期待や関心の高さがうかがえました。

2日目も公園というフィールドをフル活用！

11月22日（土）

【プレーパーク】



（タコウィンスパイスイナー焼き）

翌朝は、焚火を囲みながらゆったりと時間を過ごしました。焼きマシュマロに加え、ファミリーマートさんから差し入れていただいたおにぎりやパンまで、朝から贅沢に楽しめました。

WAGOMUさん持参の「タコウィンスパイスイ」を振りかけたウィナー焼きも、一度味わうと癖になる風味で美味しかったです。インド人監修による本格スパイスで、食べる手が止まりませんでした。

10:00 - 【ペット同行避難訓練】



(受付や、大型犬の避難所での動きのロールプレイング)

神戸市北区でキャンプ場を運営する KOBE 川の音ベースさんからは姫川さんを中心に、ペットと一緒に避難所を利用する際のルールを学びました。日頃のしつけやケージに慣れさせておくこと、マイクロチップの装着など、事前準備の大切さを改めて認識しました。

また、避難所の受付やスペース作りは飼い主同士の自主性と連携が欠かせず、普段から近所の方とのコミュニケーションが役立つことも学びました。ロールプレイングでは、飼い主が離れると吠えてしまう、ケージに入れることができないといった場面もあり、良い啓発の機会になったと感じました。

10:30 - 【草刈りロボットデモ体験】



(ゆっくり動く芝刈りロボットが可愛い)

芝刈り機などの農林業機器を扱うハスクバーナゼノア株式会社さまからは、GPS を搭載した最新の芝刈りロボットについて説明していただきました。従来は地中にワイヤーを埋め込んで作業範囲を設定していましたが、GPS 搭載によりその必要がなくなり、より柔軟で効率的な運用が可能になったそうです。動作音も非常に静かで、ランニングコストも抑えられるため、管理面での負担軽減が期待できます。参加者はロボットの構造や動きに興味津々の様子で、デモンストレーションに見入っていました。

最後に

防災体験や環境学習、地域交流など、今回のイベントを通して、公園にはまだまだ多くの可能性を秘めていることを実感しました。地域住民・団体・企業・行政等が連携することで、新しい価値が次々と生まれていきます。今後も、公園が地域の安心と賑わいを支える拠点であり続けてほしいと思いました。

また、今回のような都市公園での取り組みにとどまらず、近隣公園や街区公園といった身近な公園についても、より多様な活用方法を模索し、地域に愛される公園づくりが進んでほしいなと思いました。